

会 議 録

会 議 名		令和7年度 第1回三郷市かわまちづくり協議会
開 催 日 時		令和7年5月13日（火）15時00分～16時00分
開 催 場 所		三郷市役所 本庁舎東別館 第一会議室
出席者	委 員	赤坂（会長）、豊田（副会長）、小賀坂、石原、堀之内、日出間、斉藤、神谷
	関係機関	なし
	関 係 課 （三郷市）	商工観光課 大久保、吉田、黒坂
	事 務 局 （三郷市）	企画政策課 斉藤、澤野、宮田、渡邊
次第	1 報告事項 ・委員の変更について 2 協議事項 ・前年度までの協議内容の整理及び今年度の協議会協議内容について 3 その他 ・事務局連絡	
資料	資料1 活性化方針における修正について 資料2 三郷市かわまちづくり協議会 委員一覧	

(議事要旨)

1. 報告事項

○委員の変更について

観光協会事務局長の異動により大久保委員が小賀坂委員に変更。(資料2)

2. 協議事項

【概要・結果】

○前年度までの協議内容の整理及び今年度の協議会協議内容について(資料1)

「三郷駅周辺江戸川河川敷の活性化方針」の中で、これまでの議論があった箇所について整理。今後は、これまでの議論や実証実験結果を受け、引き続き協議会において河川敷の活性化方針を修正することに関する意見出しを行う。

協議会において一定程度の意見集約が図られた段階で協議会における検討は完了とし、その後は行政側で課題の解消等における調整を行いながら、修正後の「三郷駅周辺江戸川河川敷の活性化方針」に沿って事業化を進めていく。

以上概要・結果

【協議詳細】

○拠点地区の設定について(資料7 ページ)

▶ 設定エリアに堤防上も含めるべきだと思う。(堀之内)

⇒ 意見について承知した。(商工観光課)

○ゾーニングについて(資料11 ページ)

▶ 橋脚周りはゾーニングに含めないのか？(神谷)

⇒ 実証実験で一時的に占用したが、今後常時占用することについてはハードルが高いと考えている。(商工観光課)

⇒ 実証実験中に自由利用ができないとの声があったため、例えば自由利用できるスペースとして利用するなどのイメージはあるか？(神谷)

⇒ 一時占用においてはそういったこともあり得るが、常時占用の検討エリアからは外すべきと考えている。(商工観光課)

▶ 今後の修正案ではキャンプゾーンとバーベキューゾーンを分けない認識でよいのか？(神谷)

⇒ 認識の通り。当初はバーベキューの煙がキャンプ利用者に干渉することを懸念してエリア分けをしていたと思われるが、実証実験の結果を踏まえ、また、面積が広いこともあり、その懸念は不要と改めて判断した。(商工観光課)

○商店街との回遊路について（資料 11 ページ）

- ▶ 現方針案の表記については物理的な回遊路（デッキ等）を整備する認識でよいか？（神谷）
- ⇒ 認識の通り。ただし、今後整備に着手する際、当初からこのレベルの大きなハード整備を実施することは難しいと考えている。現状、回遊路が十分に利用されるほどの集客力が回遊路の両側にあるとは言えない状況。例えば、堤内で購入した食材を持って河川敷でバーベキューができるなど、ソフト面での回遊施策により回遊路の必要性や有効性が高まったら、ハード施策として回遊路を整備するような流れが適切と考えている。（商工観光課）

○今後の進め方について（資料 16 ページ）

- ▶ 今後の具体的な予定は？（神谷）
- ⇒ R7 第 2～3 回協議会で改めて資料の再検討事項等について具体的な議論を進め、R7 第 4 回協議会でとりまとめた。い。（商工観光課）
- ▶ 資料 11 ページのゾーニングで次の実証実験を行うことはあるのか？（神谷）
- ⇒ 基本的に考えていないが、これまで未検討の水上利用等の検討においては必要に応じて実証実験を行う可能性もある。（商工観光課）
- ⇒ その場合は国交省との調整などが必要になると思うが、R8.4 月から実証実験を実施するなど、具体的なスケジュール案は無いのか？（神谷）
- ⇒ これまでに出てきた課題が大きく、実証実験案も固まっていないため、具体的なスケジュール案は明言できない。（商工観光課）
- ⇒ 最速でいつ実施するというような目標はあるか？時期については目標を設定すべき（神谷）
- ⇒ 現時点の整理では目標設定は難しいものと考えている。（商工観光課）
- ▶ 水上利用等の実証実験を改めて実施する場合は、実証実験のために今年度の協議会の議論が止まるということか？（堀之内）
- ⇒ 実証実験を実施するために協議会のスケジュールを変更することは考えていない。（商工観光課）
- ▶ 実証実験については、「集客数」「収益性」「利用者の満足度」等のデータが必要になってくると思うが、前回の実証実験データは利用者の総数が少なく、期間も短いと捉えている。もう少し実証実験はやったほうがいいだろうという感覚。しかし、次の実証実験についての見通しは立っていない状況。となると、既存イベント等利用してのデータ集めも検討すべきでは。例えば、同じ河川敷を利用する船着場フェスティバルや花火大会の際に、事前周知期間の前倒しや新規進入路の利用等を実施することで、集客への影響度が測れたりするのではないか？（神谷）
- ⇒ 河川敷イベントは堤内地から見えにくく、周知には課題があるため、おっしゃる通り検討の必要がある。（商工観光課）

○協議会における議論の着地点について

- ▶ 協議会は何をどこまで議論したら完了となるのか？（豊田）

⇒ 今年度、活性化方針に関する意見集約が完了した段階で議論は一区切りと考えている。その後は議論を進めるというより、行政における調整の進捗を報告するような活動となることを想定しているが、このことは持ち帰りとして次回協議会で報告させていただきたい。（商工観光課）

○写真資料について

- ▶ 現方針案は借り物の写真が多く、実証実験を行ったこともあり、整備イメージが湧くような実際の写真などがあるとよいと思う。（日出間）

⇒ 写真については差し替えを行う。（商工観光課）

○周知広報について

- ▶ 主な行動範囲が早稲田の方の人たちは、実証実験にはあまり興味を持っていない感覚がある。関心があるのは土手を散歩する人くらいでは。周知広報等、もっと賑やかにやってもらった方がよい。（斉藤）

⇒ その通りなので、今後留意する。（商工観光課）

3. その他

特になし。

以上